

---

# 鶴岡地域まちづくり未来事業 令和元年度事業報告

---

令和元年度に事業採択された5地区のまちづくり未来事業の  
取組みを紹介します。

1. 三瀬地区自治会
2. 田川地区自治振興会
3. 第二学区コミュニティ振興会
4. 加茂地区自治振興会
5. 小堅地区自治振興会

## 駅前整備事業「三瀬を発信し、三瀬ファンを迎える駅前」

## 事業の目的

三瀬地域ビジョンに基づく「新たな交流の場を創出するプロジェクト」と「三瀬地区の美化活動事業」を合わせて事業を行うことで、地域住民と来訪者とのつながりを生むことを目的とした。

また、地区の歴史・文化等の特性、魅力を発信することにより、外部へのPRとなる他、三瀬に関わる人々や地区住民に対して、地区の魅力発見・再発見に繋げることを目的とした。

## 事業の内容（令和元年度事業）

宿場町としての歴史的背景や周辺地域の拠点だった地理的背景のある三瀬は、駅及び駅前が生活の中で重要な役割を占めていた。三瀬のシンボルである「駅前」を自然豊かな心温まる居心地のよい空間、明日への元気を生み出すエリアとすべく、三瀬を発信する看板設置などの必要な環境整備を行った。

1. 老木の伐採及び河津桜の植樹
2. 三瀬案内看板の作成及び設置
3. 花壇の整備及び木製ベンチの配置、東屋の設置
4. 地域ビジョンに基づく事業実施にあたり、アドバイザーである鳥取大学の筒井 一伸先生を迎えて指導・助言をいただきながらワークショップを開催した。

## 事業の成果

駅周辺では、環境が整備されたことにより、東屋に座る子どもたちや、座りながら桜を眺める高齢の方々、看板を見る学生等の様子が多く見られ、居心地のよい空間、元気を生み出すエリアが創出された。また、地区住民の魅力再発信、再発見に繋がり、第一段階における成果が表れている。

次段階では、この成果を踏まえつつ、アドバイザーの指導を付加して三瀬地域ビジョンの訴求を行う。「みんな（三瀬の）」「楽しむ」「らしさ」にこだわり策定した三瀬地域ビジョンの「行動指針」や「活動内容」に掲げた項目を自治会の年度目標と連動させながら計画的な進行を図っていく。



憩いの場が出来ました



駅前に三瀬を発信する看板が完成

## 事業の目的

田川地区は、古くは縄文時代から人々が生活し、平安から鎌倉時代には、奥州藤原氏の家来でもあった「田川太郎」が館を構えて田川地方一帯を治め、交通の要衝として栄えてきた地区である。このため、田川文化発祥の地とされ、域内に多くの貴重な遺跡や史跡が残されている。

これまでの歴史に鑑み「田川太郎」を切り口として、地区住民が一体となって知恵を結集し、創造的なまちづくり活動を行うことにより、地域の活性化及び人材の育成を図ることを目的とする。

## 事業の内容

ハード事業とソフト事業を通して、地区住民の「まちづくり」に対する意欲を喚起する。

### 《ハード事業》

1. 歴史資料展示室の整備
2. ガイドプレートの設置
3. 歴史案内板の設置

### 《ソフト事業》

1. 「田川太郎」のキャラクター作成
2. 「たろうちゃん」着ぐるみ製作
3. バス停等への壁画の製作
4. 田川太郎鎮魂夏祭りの開催
5. 田川太郎里山マラソン大会の開催
6. 「ブラ田川」の開催

## 事業の成果

令和2年度から事業開始。

## 第二学区コミュニティ振興会の取組み

## 天神祭を中心とする活力ある地域創生プロジェクト

### ～ 天神祭 人づくり プラン ～

### 事業の目的

地域の特色ある行事として定着している天神祭を核として、以下を目的に実施する。

1. 賑わいの創出。
2. 天神祭を通して培った二学区の人財を、将来の地域の活性化に活かす。
3. 地区の歴史・文化を広く住民及び市民にPRし、「地域の誇り」を育てる。
4. 未来事業終了後も継続的に取り組める事業内容とする。

### 事業の内容（令和元年度事業）

令和元年度は、1と2の目的を中心に実施した。

#### 1. 賑わいの創出

祭のシンボルである神輿の修繕。朝陽第二小学校と連携した親子化けもの衣装の製作。

オリジナル法被製作。天神様の細道前の賑わいを創出する提灯の復活やオリジナル祭旗の製作。

#### 2. 天神祭を通して培った二学区の人財を、将来の地域の活性化に活かす

神輿の担ぎ手など天神祭協力者による若手有志の会(仮称)の組織化。

### 事業の成果

学区住民代表 22 名による未来事業推進会議を月 2 回の割合で開催し、策定したプロジェクト計画に沿って 8 つの作業部会に分かれて事業を進めた。それぞれの部会が意欲を持って取り組み、地区の活性化に向け、結束を高めていくことが出来た。

神輿の修繕、法被や化け物衣装、祭旗等の製作、天神様の細道への提灯復活のための整備を実施し、天神祭の更なる賑わいづくりが整備された。

地区住民が自分たちのまちづくり活動として理解し、賛同いただきながら寄付金の協力を募る等、住民の一体感の醸成が図られるとともに、地域の活性化に向けた取り組みが進められた。



賑わいの創出の象徴として、第二学区が所有する神輿の修繕に取り組みました

朝二小と連携してパレード参加する親子化けもの衣装が完成しました。



## 加茂ビジョン実施事業

## 事業の目的

令和元年度に策定した「加茂ビジョン」に基づき、計画された5つの柱からなる事業のうち、2チーム(自然チーム・教育チーム)が行う事業を実施する。

自然チームでは、地区の自然や風景を活かす活動を進め、魅力の発信、賑わいの創出を目指す。

教育チームでは、日本遺産「北前船寄港地」に追加認定された「顔浦(加茂浦)」の歴史をはじめとして、地区の歴史の掘り起こしや発信・PR等の活動を進め、観光客を受け入れる体制を整えるとともに、歴史を後世に残し、伝承していく。

## 事業の内容 (令和元年度事業)

- 《自然チーム》 1. 加茂のビューポイントマップ作成準備  
ビューポイントや街並み、風景の魅力を抽出するワークショップの開催。
- 《教育チーム》 1. 案内看板、加茂の歴史ガイドマップの作成準備  
2. 歴史まち歩きに活用するための地元ガイドの募集  
3. 北前船の乗組員が残っていた「加茂泊町大黒舞」の継承・育成  
謡いの半纏の製作、大黒舞保存会の活動強化

## 事業の成果

加茂地区のビューポイントマップ作成に当たり、東北公益文科大学の学生の協力を得ながら、まち歩きワークショップを実施して選定し、内容が完成した。

住民にまち歩きガイドの募集や、歴史マップ・看板作成に係る情報を募集し、地区住民全体を巻き込みながら、活動を進めることができた。

謡いの半纏完成により住民へのPRができた結果、加茂泊町大黒舞保存会に10名ほどの若者たちが入会し、活動が強化されたとともに継承につながった。各活動により、住民が主体的に取り組むまちづく活動の意識の醸成が図られた。

地区の誇りである「大黒舞」

若者が入会し、保存会の練習も活気に満ち溢れています



公益大の学生の協力で、加茂地区のビューポイントマップ作成の下準備が出来ました

## 小堅地区自治振興会の取組み

遊休家屋をシェアハウスに、コミセン2階をシェアスペースに  
 ～交流から始める新しい関係づくり。そこから生み出す地域活動と  
 安全・安心な暮らし～

### 事業の目的

支え合いの仕組みをつくり、地域の価値を維持・向上させ、危機感と地域ビジョンを共有し、当事者意識高く活動する住民コミュニティをつくることを将来目標に掲げ、地域活動を行う。

交流機能を持つ住居と空間の設置を通じ、これまで集まって話したり、一緒に活動することが少なかった若者・子育て世代、或いは来訪者をつなぎ、新しい関係性を構築する。地域に必要な活動を生み出し、共に地域課題に取り組むことを通じ、結束を一層高め、安全・安心で持続可能な暮らしを創造することを目的とする。

### 事業の内容（令和元年度事業）

1. 小波渡地区、堅苔沢地区の地域づくりを一体的に推進する体制の強化  
 若者グループが中心となり、将来の地域の未来図を創造しながら、毎週月曜日検討会を開催。
2. SDGs 視点での地域ビジョン策定  
 (策定中)
3. 遊休家屋のリノベーションによるシェアハウスづくり

### 事業の成果

地域住民も集まれる場所づくりの整備を通して、地域住民の期待や楽しみも増してきた。中間内覧会を開催する等、地域住民の関わりも多くなり、持続可能な地域づくりのためのひとつの基盤が出来上がった。今後は、SDGs 視点での小堅地区地域ビジョンを住民に周知し、理解を深めながら、ビジョンに基づくまちづくり活動を実施していく。



大勢の参加のもと、キックオフパーティが開催されました



シェアハウスを拠点として、地域ビジョンに沿ったまちづくり活動がスタートします

令和元年度に事業実施した地区では、

～ 地域ビジョンに基づき事業展開しています～

～ 地域の担い手が活躍できる仕組みができました～

### ☆三瀬地区自治会（地域ビジョン策定済）

三瀬ビジョンの3つの柱の一つ「みんなで元気を生み出し発信するまち三瀬」の具体的な活動として、三瀬のシンボルである駅前環境整備を実施しました。令和2年度は、住民にビジョンの周知を図って理解を深めながら、目標達成に向け、地域を挙げて具体的に活動を進めていきます。



### ☆第二学区コミュニティ振興会(地域ビジョン策定予定)

天神祭を通して培ってきた二学区の「人財」を将来の地域の活性化に活かすことを目的に、神輿の担ぎ手等天神祭協力者による若手有志の会（仮称）を組織化する準備を行いました。

令和2年度は、正式に発足し、コミセン事業等から活動の場を広げていきます。



### ☆加茂地区自治会（地域ビジョン策定済）

北前船の乗組員が残した「泊町大黒舞」の保存会は高齢化が進み、伝承が危機的状況にありました。日本遺産の追加認定を機に青壮年世代が歴史を守り伝えようと動き出し、10名ほどが会員となって活動が強化されました。謡いの半纏も完成し、加茂ビジョンに掲げる「地区の歴史を継承する」活動が発展的に進められています。



### ☆小堅地区自治振興会（地域ビジョン策定中）

令和元年度は、地域の若者グループが中心となり、将来の地域の未来図を創造しながら検討会を毎週月曜日に開催しました。

現在は、「未来創造部会」として発足し、今後はシェアハウスを拠点に、交流を図りながら、地域課題解決に向けた取組みを進めていきます。

